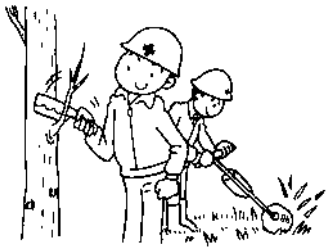
HIROBA
ひろば
2006 秋
「支えあい連絡会」ホームページ http://www.katuradai.com/



vol.14

特集テーマ

『団塊世代定年後の地域参加について』

～６０歳からのボランティアデビュー～

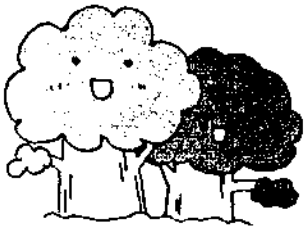
畑作業の楽しみが地域活動に発展/緑栄塾を訪ねて

「畑作業を楽しみたい」と、同じ思いで集まった仲間と和気藹々（あいあい）、 ①約５００坪の畑で、作物の栽培と収穫を楽しみ、 ②畑周辺の整備も含め、畑を作業することで貴重な里山の景観保持に貢献し、 ③地域の人々と畑での作物の収穫、福祉施設でのうどん打ちなどで頻繁に交流しています。 収穫物の加工を通して、うどんやソバ打ちはもとより、味噌、豆腐、パン作りなども自然に身につきます。

パソコン、写真などの得意な方は、広報誌やホームページなどの作成に。料理自慢であれば、イベント時に採りたて野菜を使った大鍋料理の調理に。また、大工、土木作業が好きな方は、収納小屋の増改築や農道作りにそれぞれ自慢の腕を発揮できます。面倒なことには関わりたくない方も、「参加したいときに参加し、好きなことをする」ことでＯＫです。 創立10周年。会員数は、常時４０数人で、その構成は、数人の女性と定年退職後の農作業初体験の男性主体です。

長続きの秘訣は、①活動の内容が面白い ②良い仲間がいる ③自分のペースで活動できる ④ボランティア活動が活発で充実感があるなどです。

サツマイモの植付け



ソバ打ちを楽しむ

目次

Ｐ１ 男性ボランティアのユートピア緑栄塾を訪ねて
Ｐ２ 配食グループ「ゆう」、サロン・かめい、データで見る団塊世代
Ｐ３ ひだまり三火、保健活動推進員、ボランティア活動を続ける為には（アンケート）
Ｐ４ 支えあい連絡会全体会（本郷中央地区）（上郷西地区）

地域の男性ボランティア活動を取材

配達ぐらいなら（配食グループ「ゆう」）

高齢者や身体の弱い方など食事作りに困難を感じている人へ、お弁当を届けて差し上げたいと言う人達が集まり、ボランティアグループのグループ「ゆう」が平成６年に誕生しました。会員数は調理ボランティア６０名、配達ボランティアは３５名です。毎週木曜日の昼食３０食程度を食材費(４５０円)でお届けしながら見守り活動もしています。「ゆう」のお弁当は薄味、食材は食べやすいように小さく、彩り良く、季節を取り入れた食材、野菜料理を中心に献立を作っています。無償ボランティアで構成されているので利用料金も、とても安く利用者には評判がよいようです。

ある男性会員は“自治会の役員をやっていた時、グループ「ゆう」の配達の人が足りなくなり、困っているという話を聞き、私でできることならやってもいいと思って始めました。高齢者に対する各地域での支援活動は、各世代が順繰りにやってゆくもので、次は私が支援される番が回ってくると思っています”と話されていました。

地域には活躍の場がたくさん（サロン・かめい）

地域に住む人たちが交流を楽しむ「サロン・かめい」は亀井町の有志９人で運営されています。秋晴れの日、会にお邪魔してスタッフの鈴木徹郎さん（65歳）と石田英夫さん（66歳）にお話を伺いました。

鈴木さんは「定年になる２年前、妻に連れられて太極拳の教室に行ったのが地域と接する最初の一歩でした。会社人間でしたから、まるで公園デビューでしたよ」。今は本郷ふじやま公園で週２回畑仕事のボランティアをしたり、早朝の太極拳も続けているとのこと。地域の方々とうまく付き合うコツを聞くと、「今までの経験を捨てること」という答えが返ってきました。

亀井町の自治会長でもある石田さんは「自分にとって人のために動いているときが一番幸せ」なので、地域活動を行っているそうです。以前は養護学校でのボランティアや障害者のイベントの手伝いをしたり、地域の卓球同好会等に入ったそうです。「定年後の人生を有意義なものにして欲しい。地域でやることは、たくさんあります」と楽しそうに話してくれました。また、団塊の世代の方々を対象に懇談会を開きたいと抱負も語っておられました。

鈴木さん　石田さん

サロン風景

団塊世代をデータで見ると

団塊世代　一口メモ

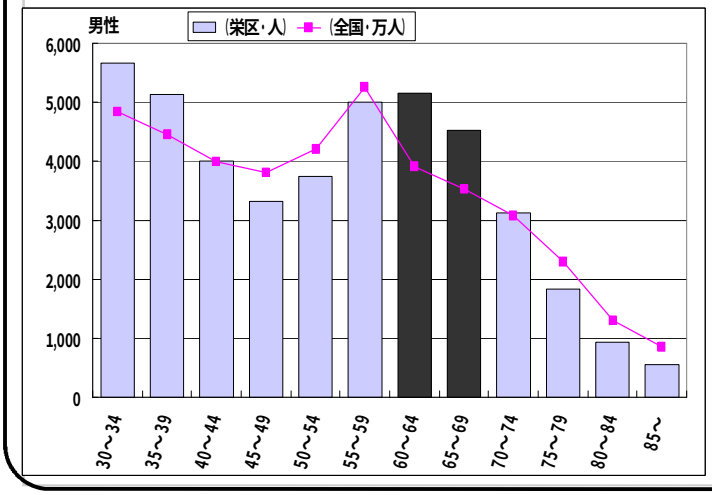
最近、頻繁に耳にする「団塊の世代」の語源についてご存知ですか。「団塊」とは鉱物用語「ノジュール」の訳語で、堆積岩中に周囲と成分の異なる物質が固まっているところを指します。「大きく固まっている存在」というだけではなく、「密度が高くて周囲と異なる性質を持つ」という意味が含まれているそうです。突出して人口の多い１９４７年（昭和２２年）から１９４９年（昭和２４年）の３年間に生まれた世代をこう命名したのは作家で、１９９８年から２０００年まで国務大臣経済企画庁長官も務めた堺屋太一氏。１９７６年（昭和５１年）に発表した氏の小説『団塊の世代』の中で始めて登場した言葉です。

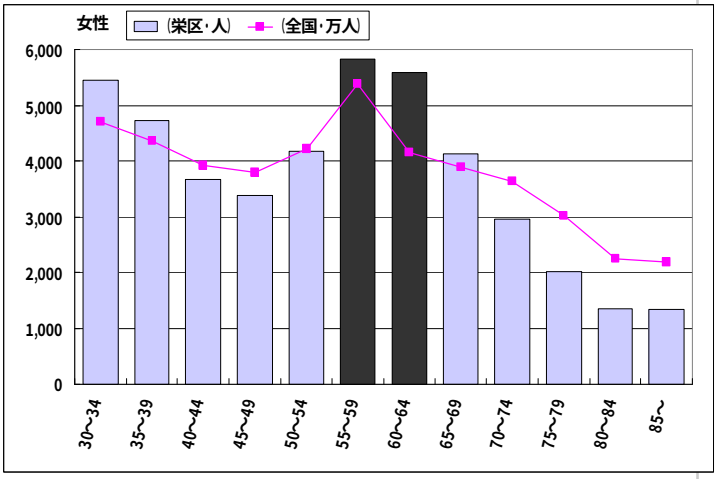
では、「団塊の世代」に共通の経験とは何でしょうか。「戦争と飢え」を知らない最初の日本人、テレビっ子世代、全共闘世代、ビートルズ世代、ニューファミリー世代などとも言われ、若い時に、大学紛争やベトナム戦争、共産国家の崩壊を見てきた世代であり、最近では高度経済成長、バブル景気とその崩壊、終身雇用制度の崩壊などを経験しています。

栄区の団塊の世代は多い

データで見てみよう。他の年代と比較して団塊の世代が特に多いのが分かる。

（注）資料：総務局統計解析課（栄区のデータ平成17年９月、全国のデータ平成１８年５月）





男性調理人大活躍（ひだまり三火）

この団体は平成１１年に結成され、桂台ケアプラザを拠点として毎月１回ミニデイサービスを開いています。利用者は２５名前後、ボランティア２３名（内調理１５名）の大所帯。特徴は、調理場を男性陣が受け持っている事です。料理のベテランと初心者が一体になり、メニュー決定、買い出し、調理を男性が主となってこなします。８月に会場に伺って、お話をお聞きしました。

『参加した動機は？』料理教室に通っていたが、単なる教室より実地の方が実になると思い参加した。福祉の視点も大事だが、自分の料理が「美味しい」と言われるかどうかの成果に関心が向く。

『なぜ男性が調理を？』会社で身に付いた立案力を生かせる。メニューも１年分を重ならない様に作ってある。これぞ男性の特技。女性の豊富な経験はもちろん利用させてもらう。

『男性ボランティアの獲得方法』見込みのある人が居たら、奥さん達から勧誘をして一本釣りをする。

介護保険の改訂で、会の需要は増えている。対応する為には、倍くらいの調理担当者が必要。地域の料理教室等でスカウトして行く。

『団塊の世代への期待』まだ数年先の事。仕事と切れていない人が多いので、参加してもらっても、短期間で辞めて行く人が多いだろう。この会を辞めた人達は、再就職した人が多い。これにどう対処するかが問題。

地域参加に成功！（保健活動推進員）

現在私は「推進員」として楽しく忙しく地域と係わっています。この制度は、戦後の混乱していた時代昭和２３年に「横浜市衛生奉仕員」として設立され、今の名称に変わったのは平成１３年です。地域から求められている役割は、「生活習慣病予防」を中心とした「健康づくり活動」が柱になると思っています。

上郷西地区では「健康づくり活動」の一つとしてウォーキングが行われています。そしてこの活動の中から様々な交流が生まれています。私も参加している水彩画の会等も一例で、入会動機は、知人の紹介・絵をやってみたい・作品展等を見て「私にも描けそう・・な気がして」等軽い気持ちで始められた方がほとんど。今号のテーマ「定年後の地域参加」へのアドバイスですが、自然体で気楽に参加してみること、そして続けること・・・これが大事。続けることで、多くの交流が生まれる筈です。そして地域まるごとの「健康づくり」につながるものと思っています。地域活動に係わる機会は幾らでもあります。桂台地域ケアプラザ地域交流部門に相談してみるのも一案です。

上郷西地区保健活動推進委員会　会長　小華和　紘記

「ボランティア活動を楽しく続ける為には？」

栄区で実際に活躍されている男性ボランティア５２名の皆さんに、ヒントを頂きました。

Ｑ１、活動を始めたきっかけは？

①知人・友人にすすめられた..... １０人
②家族にすすめられた..... ４人
③興味関心があり自分で探した..... ２５人
④広報誌やチラシ、イベントなどで知った... ６人
⑤その他..... ７人
・生涯学級の講座・会員に勧められて
・空缶回収のボランティア活動の延長として
・ボランティア講習会・区広報紙
・区役所の門を叩いた・生涯センター紹介

★③④が31人、①②の14人を上回り自分で探す積極さが伺える

Ｑ２、活動を長続きさせるコツはなんですか？

①活動が面白い..... ７人
②良い仲間がいる..... １４人
③自分のペースで活動をする..... ２０人
④人の為になっていると言う実感があり
充実している..... ８人
⑤その他..... ..... ３人
・生活のリズムを作る
・良い運動とストレス解消になる
・勉強になる

★②③が多く、良い仲間がいて、自分のペースで活動が可能というのがコツ

アンケート協力団体：荒井沢緑栄塾楽農とんぼの会：男性ボランティアいでたち：パソボラ横浜

取材して感じた事

◆『ひだまり三火を取材して』会全体として、男性と女性の良い点を両立させようと努力されていると感じた。無理に同じ行動基準を当てはめないで、調理場は男性的に、会場は女性的にと、全体としてバランスを取ろうとしているようです。地域に帰ってきた男性に、無理矢理「地域のやり方です！」と押し付けない態度は参考になりました。(J.N.)

◆私が取材で出会った二人の男性は何のてらいもなく、ご自身の生き様を楽しげに語ってくれました。地域で自分たちができること、人のために働く喜び、何よりも自分の人生に真摯に向き合う姿勢に格好よさを感じるのは私だけでしょうか。(R.S.)

◆気持ちよく活動できるボランティア団体を探している人は、かなりいるようです。今後もホームページや「ひろば」で、継続的にいろいろな団体を紹介できればと思います。(T.U.)

◆本郷中央地区支えあい連絡会全体会報告

◇議題の中心は、13自治会から協力を得て行った「わが町の福祉増進について」のアンケートと訪問の報告であった。その結果が詳細に分析され、データが多角的に記されている。自治会毎にどんな活動をし、どんな課題を抱えているのか鮮明に分かる（来年1月には、これらのアンケートをもとにテーマを設定し「話し合い広場（仮題）」を開催予定）。多くの自治会が課題として出されていたのが、「要援護者の把握の方法」である。具体的な活動に関して障壁となるのが「個人情報保護法」であり、今回も話題の中心となった。
民生委員は、この法の運用に関して研修会を開き、活動に必要な要援護者リストを作っている事を紹介した。行政からは、地域の中で「顔の見える関係」が出来る事に強い関心を持っている、そのために「支えあい連絡会」が最も効果的な手段である旨の報告が行われた。
会は、9月22日３７名の出席者で開催された。

◇各分科会からの報告

①「ボランティアグループ分科会」・定年になった男性の参加を期待し、人材の発掘に取り組んでいる。・改訂介護保険制度の学習会と傾聴講座を開催した。・利用者とのコミュニケーションの取り方と介護予防事業の研究等を行ったと報告された。

②「子育て支援分科会」・おもちゃ文庫支援、・井戸端サロン、・親子講座、・夏休み中学生ボランティア講座の報告があった。最近は、孫を連れた祖母祖父の参加が増えている。親子対象の「特別プログラム」の人気が高い。

③「地域づくりの会」・科学で遊ぼう！おもしろ科学探検～アイスクリーム作りの巻～を開催、・わくわくスポーツ交流会を１１月２６日に計画。

④「本郷中央地区地域福祉関係者分科会」・地域把握を目的とした福祉アンケートの実施、・協働福祉講座 -防災対策を１０月１４日に予定。

⑤「広報分科会」・ひろば１４号「６０歳からのボランティアデビュー」をテーマにして作成中、・ホームページは常時更新中で、皆さんからの情報提供を希望している。

◇関係機関からの報告

主な物は、防災ネットワークの設立、定期訪問する為の障壁、H18年版地域福祉計画作成中、等。
次回は、平成１９年２月２３日に開催予定

◆上郷西地区支えあい連絡会全体会報告

「青少年指導員協議会」「体育指導員連絡協議会」「消費生活推進員の会」「上郷西シニアクラブ連合会」が初めて加わり、組織と独自に活動中のボランティア団体との連携をどうするかが話題の中心となった。更に、「支えあいネットワーク・ハンドブック（案）」が提示され、関係部署で検討を加える事も確認された。会の名称を「支えあいネットワーク」に変更する提案が出され承認された。（１０月３０日参加者３０名）

◇各分科会からの報告

①「上郷西地区地域福祉関係者分科会」
上記の「ハンドブック」を他の分科会から協力を得ながら作成中。

②「ボランティアグループ分科会」
２０グループによる「フォローアップ研修会」と「課題検討会」の結果が披露され、ボランティアの発掘が共通の課題として議論されたと報告が有った。

③「子育て支援分科会」
各種の行事成果が報告された。11/10に思春期講座を開催予定。地域ぐるみの青少年育成に向け、参考にしてもらいたい。

④「地域づくりの会」
７月に開催した、おもしろ科学探検隊による「アイスクリーム作り」では異世代交流が出来た。残り２つの行事が１１月と来年３月に予定されており協力を依頼された。

⑤「広報分科会」
前述の行事を取材しホームページに掲載している事と「ひろば１４号」を団塊世代に焦点を当てて編集中と報告された。

◇亀井町自治会から

「安心・安全の町づくり」の取り組みが報告され、別途立ち上げたボランティア組織と自治会が手を結んで継続性のある活動を狙っている旨の発表が有った。成果として、バス停からの夜道の照明が関係者の協力を得て明るくなった事を報告。

◇関係機関

「高齢者等定期訪問事業」の現状、「徘徊ＳＯＳ」、「エールプラン」等の説明があった。
次回は、平成１９年３月７日（水曜）開催予定。

◆◆お知らせ◆◆　◇今号から４ページ構成にしました。（従来は８頁）一部内容を凝縮して記述しましたので不明な点が有りましたら、桂台地域ケアプラザへお問い合わせ下さい。

◇編集製作　桂台地域支えあい連絡会広報分科会　内山、佐藤、錬石
◇お問合せ　桂台地域ケアプラザ　電話897 -1111　楠原、石黒